

事業所における自己評価結果

公表

事業所名		発達支援さくらボViitta(放課後等デイサービス)				公表日	2026年 2月 24日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		2部屋を年齢・活動別に分けて使用している。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		基準人員以上に職員を配置している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		学習などの机上活動で、障害特性に応じて椅子に座れない児童には、別のツールを試したりしている。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		児童が活動に集中しやすいよう整理整頓に努め、机の配置など工夫している。適宜清掃を実施し、清潔な環境を維持している。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		完全に隔離されたスペースはないが、クールダウンするスペースを確保している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		日々の支援やイベント等で本人の様子、モニタリングを通して、PDCAを回しながら、支援内容の充実をはかりたいと考えている。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		会議等を活用し、保護者様のニーズや意見等を踏まえて、支援内容を検討したいと考えている。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		各職員の意見等を適切に反映させ、業務改善につなげていけるように努めている。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		あかし療育図鑑の外部評価に参画している。いただいた意見を真摯に受け止め、改善に努めている。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		研修については、積極的に参加を促し、法人からの助成もを行っている。		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		支援プログラムについては、HPIに掲載している。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		アセスメントについては、職員会議等を利用し、直接支援を実施している職員の意見や保護者のニーズ等を客観的に分析し、その上で、個別支援計画を策定している。		
	13	放課後等デイサービス支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		保護者とのモニタリングについては、直接支援を実施する職員も立ち合うなどして、お話をさせていただいている。その上で、個別支援計画を策定している。		
	14	放課後等デイサービス支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画策定の段階で、各職員には共有している。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		発達段階に合わせたスキルリストを参考にアセスメントしている。	標準化されたツールを使用していないので、今後検討していきたいと考えている。	
	16	放課後等デイサービス支援計画には、ガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		各項目の内容を踏まえながら、個別支援計画を作成しているが、今後もさらに具体的な内容となるように計画内容の見直しを継続していきたいと考えている。		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		児童発達支援管理責任者、管理者、直接支援する職員と相談しながら、プログラムの立案を行っている。		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		直接支援をする職員から、プログラムやイベント案を募り、固定化しないよう心がけている。季節の制作や行事を積極的に取り入れている。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別支援計画には、個別・集団活動の両内容を記載し、支援に取り組んでいる。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前には、ホワイトボードを活用して朝礼を行い、その日の活動内容等、役割分担等の確認について、職員間で確認している。		

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後には、送迎等で振り返りの時間が少ないが、大切な申し送りはその都度実施している。当日に難しい場合は、翌日に申し送りや気付いた点等を共有するようにしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		日々の支援は、支援記録等に記録し、保管している。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		保護者とのモニタリングについては、直接支援を実施する職員も立ち合いますなどして、お話をさせていただいている。その上で、必要な見直しをかけ、個別支援計画を策定している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ、支援を行っているか。	○		ガイドラインの基本活動を踏まえ、支援を行っている。	
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		子どもの意見も傾聴しながら、支援を行うよう心がけている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		会議には、児童発達支援管理責任者等が参加している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		行政保健部門、医療機関での就業経験のある職員により、感染動向などの把握には努めている。	地域の保健、医療機関等との連携は、まだおこなえていない。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校との情報共有は、各職員が行っている。情報は、職員間で共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		放課後等デイサービスからの利用者は、保護者を通じて、就学前に利用していた保育所等からの情報収集をしている。当事業所の児童発達支援から進級する児童がほとんどであり、シームレスな視点で支援を実施している。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		現段階で卒業後に障害福祉サービス事業所等へ移行された方がいないが、卒業した方が出た時には、情報共有を進めていく。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			連携がとれていないので、今後連携を図っていきたい。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		基本的には学校・学童や習い事との併用利用の児童がほとんどである。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		子ども部会への参加を積極的に行い、情報交換に努めている。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		公式アカウントや送迎時を利用して、保護者と情報共有を行っている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者からの相談には丁寧に対応しているが、研修の開催はできていない	今後、定期的に研修会を開催し、発信していきたいと考えている。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時に、重要事項説明書等の読み合わせをするなど詳細を説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		利用前には、アセスメントを実施し、本人や保護者様の意向を傾聴している。また個別支援計画には、こどもの最善の利益を優先しながら作成し、内容を保護者に確認、了承を得たうえで、利用を開始してもらっている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		利用前には、アセスメントを実施し、本人や保護者様の意向を傾聴している。また個別支援計画には、こどもの最善の利益を優先しながら作成し、内容を保護者に確認、了承を得たうえで、利用を開始してもらっている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		家族支援の一環として、適宜、お困りごとに対して、面談等を実施し支援を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			今年度、保護者会の開催ができなかったため、今後は定期的に開催できるように計画し、実施日や内容を、迅速に発信できるように努めていきたい。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		保護者からの苦情や連絡については、可能な限りリアルタイムで各職員へ共有し、迅速にかつ適切に対応するように心掛けている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		イベント等は各保護者へ個別に情報発信している。また、日々の支援内容等については、公式アカウントや連絡帳を活用し、写真送付を含めて発信している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		写真の送付時には、他のこどもが写らないよう心掛けている。また個人情報の書類は、外部への持ち出しを禁止し留意している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		適宜、こどもの意見を傾聴し、意思への配慮を実施している。また保護者とは、SNS、電話、面談等を通じて情報交換と共有を実施している。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		地域住民を招待する事業所行事はしていないが、避難訓練や活動内容はお知らせしている。	

非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルは作成し、計画的に訓練を実施している。また、防災センターへの見学等、施設外での体験も実施している。	
	47	業務継続計画(BCP)を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		BCPの策定を行っており、研修とともに訓練も実施している。また、非常食や避難用グッズ等も常備している。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		適宜、保護者と服薬情報の共有を行い、こどもの様子を情報交換しながら支援をしている。看護師にすぐ連絡が取れる体制にしている。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		適宜、保護者と食物アレルギー情報の確認を行い、事業所内で共有している。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画は、HPIに掲載しており、計画に基づいて各種訓練や点検等を実施している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		訓練実施時には、取り組み内容等を保護者へ共有している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハット用の報告書をファイルにまとめて、いつでも閲覧できるようにしている。また、ヒヤリハットが発生した時には、各職員へ情報共有し共有化を図り、事故防止につなげている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		定期的に、虐待防止研修等を開催し、虐待防止対策を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		職員には、定期的に身体拘束の研修を開催し、実施する場合の原則を周知している。身体拘束報告書をファイルにまとめて、いつでも閲覧できるようにしている。	